

平成30年度 教育事業(普及啓発事業)

「交流の家通学合宿」～郷土の先人の教えを実践しよう～ (6年目)

1 事業概要

参加した小学生は、異なる学校・学年で構成された班で協力して生活を行った。6日間、交流の家でとともに過ごす中で、仲間意識や生活習慣を身に付けていった。また、班のめあてや郷土の先人の教えについて毎日の振り返りを行い、めあてを意識して生活を行った。



2 事業の目的(ねらい)

家庭から離れた共同生活の中で、様々な生活体験活動を通して、子どもたちの自主性や協調性、耐性等の「生きる力」の基盤となる豊かな人間性やコミュニケーション能力を高めるとともに、基本的な生活習慣の定着や規範意識の向上を図る。また、事業を通して郷土の先人である矢野玄道・中江藤樹の教えの実践を行うとともに、参加児童や保護者、連携する学校関係者等へ「早寝・早起き・朝ごはん運動」の普及啓発を行う。

3 企画・運営のポイント

この通学合宿は、市内の同じ中学校に進学する予定の小学校(大洲小・久米小)2校に協力いただき、大洲青少年交流の家に宿泊しながら、学校へ通う事業である。長期間事業を行う中で、毎日のふりかえりを行うことにより、日を追うごとに子どもたちは成長し、生活のリズムが身に付くと考える。失敗したことやできなかったことを次に活かされるように事業を計画した。また、各校区の先人の教えを意識し生活するようにする。

4 期待される効果

本事業では、長期間の集団生活をする事により、望ましい生活習慣を身に付け、家庭でも引き続き「早寝・早起き・朝ご飯」の生活習慣や自分のことは自分ですること、家族の一員としてお手伝いをするなどの生活ができると考えられる。また、学校・学年を超えた仲間づくりができると考えられる。

- 5 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
- 6 後援 大洲市教育委員会
- 7 期日 平成31年2月11日(月)～16日(土)
※保護者対象事前説明会2月4日(月)19:00に実施
- 8 場所 国立大洲青少年交流の家
- 9 参加人数 大洲市立大洲小学校17名(4年生2名・5年生7名・6年生8名)
大洲市立久米小学校12名(4年生5名・5年生7名) 計29名
- 10 日程 (募集人数30名・応募30名)

2月11日(月)												
				13:00		15:00		18:00		20:30	21:30	
				受付 入所式	OR 仲間づくり	野外炊飯 カレー作り	生活・学習・仲間タイム (入浴・学習・班活動)	ふりかえり 就寝準備			就寝	
2月12日(火)～14日(木) ※ 火曜日【星空観察】 水曜日【和紙づくり】 木曜日【キンボール】												
				6:00	6:50	7:30		17:00	18:00	19:00	20:30	21:30
起床	清掃 整理	登校準備 健康観察	つどい 朝食		登校 学校 下校	つどい 夕食	生活・学習 タイム	星空観察 和紙づくり キンボール	ふりかえり 就寝準備		就寝	
2月15日(金)												
				6:00	6:50	7:30		17:00	18:00	20:30	21:30	
起床	清掃 整理	登校準備 健康観察	つどい 朝食		登校 学校 下校	つどい 夕食	生活・学習・仲間タイム (入浴・学習・班活動)	ふりかえり 就寝準備		就寝		
2月16日(土)												
				6:00	7:00	8:40	9:00	10:30	14:00	14:30	14:45	
起床	健康 観察	つどい 朝食	清掃 荷物整理 退所点検		クラフト	野外炊飯 カレー作り	まとめ アンケート 発表会	退所式		解散		

11 活動内容

「入所式」

所長のあいさつの後、オリエンテーションのビデオとともに、通学合宿の日程や活動のイメージや今回のテーマである郷土の先人についての説明を行った。「矢野玄道」は久米小学校区、「中江藤樹」は大洲小学校区にゆかりがあり、それぞれ学校で先人の教えについて取り組んでいる。そこで、各学校で取り組んでいることを紹介し、「矢野玄道」からは、整理整頓について、「中江藤樹」からは、思いやりの心についての教えを実践することとした。

「登校・下校（平日）」

各学校への登校は、交流の家所有のマイクロバス、中型バスを利用した。各バスには、スタッフやボランティアスタッフも乗車し、各学校の校門まで見送りをした。また、各学年の下校時間に合わせて迎えに行った。バスの中では、学校であったこと、交流の家に帰ってからやりたいこと等、話が盛り上がっていた。

「野外炊飯（初日・最終日）」

初日、最終日には、野外炊飯（カレーライス作り）を行った。2回経験することにより手順を覚え、家庭での実践へとつなげるためである。また、初めと最後に行くことにより、自分たちの班としての成長を感じさせるためである。初日にカレーの水の量が多すぎて失敗した班があった。その班は最終日、初日の反省を生かし、班全体で水の量を意識して確認を行うことでおいしいカレーを完成することができた。



「星空観測」

雲一つ無い冬空の下、研修指導員の松井氏による星の観察を行った。児童は、北極星の見つけ方や星座の見つけ方、天体に関する話を聞くことができた。望遠鏡では月のクレーターを見ることができ、月についての理解を深めることもできた。

「和紙づくり」

所員の指導による紙すき体験では、木の皮を原料に紙ができることを学ぶために、実際に所の檜の皮を使った紙づくりを行った。さらに、バージンパルプを使い、ハガキサイズの和紙を作成した。作成した和紙は、家族へのメッセージカードとして日頃の家族への感謝の言葉を書き、退所後に保護者へ参加者が手渡した。



「キンボール」

所員のルール説明で、班対抗のキンボールを行った。班以外にも、ボランティアチームも参加して、6チームで予選、決勝を行った。チームで協力するスポーツであるので、班としてもまとまりができるきっかけとなった。熱戦が繰り広げられ、寒い体育館が熱気一杯のものとなった。



「ふりかえり（毎晩）」

毎晩日記の記入後に班によるふりかえりを行った。一人一人の一日の感想を述べた後、班の目標と先人の教えの「整理整頓」「思いやり」について、班全体のふりかえりを行った。できなかったことは次の日の課題として、みんなで意識して生活できるようにした。初めは、個人的な意見が多く、時間がかかっていたが、回を重ねることにより、班長がうまくみんなの意見をまとめることができるようになり、自分のこと以外にも、班でできるようになったこと、全体として頑張れたことなどの意見が多くなった。

「発表会・退所式」

退所式前の発表会では、6日間のふりかえりについて、班で役割を分担して一人一人が発表をした。退所式では、次長のあいさつの後、修了証の授与を行った。ボランティアへは、各班の班長から班の

メンバーが寄せ書きした感謝状を手渡した。最後に、6日間の振り返りとしてスライドショーを鑑賞した後、ボランティアが作成した横断幕で迎えに来られた保護者と帰宅する子どもたちを見送った。



12 参加者の声

参加者の事後アンケートの結果【小学生】

- * 満足 : 96.3 % * やや満足 : 3.7% * やや不満 : 0.0%
- * 不満 : 0.0%

- 規則正しい生活ができ、家族の大切さや家で親がしている仕事の大変さを学ぶことができた。(11歳・女子)
- お母さんがいつもしている洗濯などの忙しさや、時間の使い方などよく分かった。これからは、自分が洗濯物などをしていきたい。(11歳・女子)
- 班の人と協力する活動が多かったので、団結力が高まった。最初にやったものを最後にもう一度やるとどれだけ成長したか分かってよかった。(11歳・女子)
- 家事をすることは大変だということが分かった。仲間といることの楽しさに気付けた。(12歳・男子)

13 成果と課題

【成果】

事前・事後にI K R調査を行った。これは「生きる力」を測定するための28項目で「とてもあてはまる」を6点「まったくあてはまらない」を1点としてそれぞれ1点刻みで得点化したものである。事前から事後にかけて15.0ポイント向上し、向上に有意差が見られた。特に、「明朗性」や「交友・協調」の心理的社会的能力で、大きな伸びが見られた。

6日間の長期間、班での活動や仲間と生活することで、打ち解け合うことができたのではないかと考える。また、「先を見通して、自分で計画が立てられる」の調査項目でも伸びが見られた。交流の家での生活において、自分のことは自分で行うこと、身の回りの整理や時間を気にして生活することを経験することで、見通しをもち行動することにつながったのではないかと考える。さらに、参加者の感想からは、家族への感謝の気持ちについて述べてある内容が多く見られた。以上のことから事業のねらいを十分に達成することができたと考える。

【課題】

活動プログラムを入れたり、振り返りの時間を確保したりすることによって、就寝前の時間にゆとりがもてなかった。活動プログラムの内容を精選するとともに、時間の配分など来年度の実施へ向けて考えていきたい。

(担当：企画指導専門職 清水大輔)

